

## WASLI 通訳者教育ガイドライン

### 1.0 始めに

次の文書は、教育の場のない、あるいはその場限りの教育しか受けていない国で通訳者教育を提供することを望む国のためのガイドラインをまとめたものです。この文書は規範的なものというようよりも、通訳者教育の場を立ち上げるにあたり WASLI に助言を求める国からの多くの質問への回答として提供するものです。2009 年、通訳者教育について問い合わせをしてくる国への支援方法を見出すため WASLI 小委員会が開かれました。WASLI はメール配信リストや WASLI 会報、地域代表理事のネットワークを通じて、この委員会へのボランティア参加を呼びかけ、委員会には、幅広い国からの（オーストラリア、ベルギー、カナダ、ケニア、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ナイジェリア、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、スウェーデン、アメリカ、ジンバブエ）通訳者およびまたは通訳者教育者が参加しました。委員会は 2009 年からこの事業を進めてきて次のガイドラインを準備し、WASLI の承認を待ちます。

最終文書はデブラ・ラッセル、レイチェル・ロッカー・マッキー、ジュリー・サイモンによって立案されました。

### 2.0 現状説明

現在、多くの国で、手話通訳者養成の正式な形式はまったくなかったり、連続したコースや特別な内容計画もないままのその場限りの養成が稀にあったりというような状態です。たまに、自国で通訳者養成の経験や歴史をもつ通訳養成者が旅行の折に招かれた国でトレーニングを提供することがあるようです。こういったことが役立つこともある一方、そのトレーニングが、言語や文化の面で配慮が足りない方法で行われたり、地域の手話に対する認識がかけていたり、活動し続けられるような地域の養成者を開発させるための支援ができなかったりする場合には、問題が起こることもあります。

この委員会のメンバーや国際的な相談を請け負う方々から WASLI が学んだことは養成機会に幅があるということです。例えば、週末や一週間のセミナーを催す国もあれば、手話ワークショップと通訳ワークショップの両方を複数の項目—手話の構造と文法、チーム通訳、倫理と専門的実践、言語能力、医療や教育現場の通訳—の幅をもって行っている国もあります。少しばかりの例ですが、手話通訳者の知識と技術を向上させる方法として、非公式に構成された指導者プログラムがあると報告する国もあります。

資源や少なからぬ歴史のある国では、実際にあるプログラムに基づく学士号や学位のある中等教育以降のレベルで形成された通訳者教育が見られます。オンラインでの遠隔教育と伝統的な顔の見えるクラス教育とを組み合わせたり、また全てがオンラインで行ったりする国が増えてきています。プログラムは 2 年の免許状コースから、3,4、年の学士コースの選択や職業資格プログラムと多岐にわたっています。このプログラムはパートタイムでもフルタイムでも受けることができ、

手話の学習プログラム（多くは1,2、年）を卒業していて、手話知識があるという条件を満たす必要があります。他にも手話を知らない人を受け入れるプログラムもあります。

経済新興国でろう者コミュニティの政治意識のある国では、必ずしも中等教育以降の通訳者養成プログラムを始められるわけではないことがあることもわかりました。それなら、(経済的、人的、技術的、知的)資源の限られた国で通訳者養成をどう始めていくのがベストなのか？通訳者教育の初期段階の国の通訳者の効果的な学びをサポートする方法があるのか？

こうした現状をもとに、WASLI 作業グループは哲学的声明の草案を書きました。そこでは、地域の手話およびまたは国の手話を尊重しながらろうコミュニティとともに活動する教育的なトレーニングの機会を提供するために出向いていく教育者を WASLI が切に望んでいることを強調しました。これがそれらの国での通訳者教育に役立つ最も良い方法について議論を始めたときの通訳者養成者と国への初めてのガイドラインです。

### 3.0 WASLI 哲学的声明

世界手話通訳者協会 (WASLI) は世界中における職業としての\*手話言語の通訳の発展のために尽くします。通訳者教育が確立されている国の通訳者教育者と通訳者教育がないか、あるいは新たに開発中の国の教育者とが協力をします。教育者はその国の手話通訳教授、実習に影響を与えている文化的、言語的、社会的、政治的条件を認め、組み入れる方法で効果的な実習を計画し、質の高い教育をもたらすよう協力して活動します。このように協力する目的は、国の手話、習慣、規律の規範を保ちながら、様々な状況での養成トレーニングの受けやすさ、適合性、有効性を確かにすることです。

経験を積んだ国際的な教育者は適切な関係者、といっても限られた人々ではなく、広く、ろう者、聴者のコミュニティ、ろう者と聴者の通訳者、ろう組織、盲ろう組織、音声言語コミュニティ、翻訳通訳組織代表者、政府代表者、教育機関代表者などと、協力関係を持ちます。この協力関係の目指すところは、専門知識を発展させ、地域の人々に力をつけることで各々の国での通訳者教育確立に向けてリードをとらせること、手話通訳者の全国組織を存続させその発展を支援することです。その全過程において文化的言語的価値を認め尊重し協力をすることはあらゆる活動の成功のために必須のことであると、WASLI は考えています。

\*「音声言語 (*spoken language*) 」という言い方に合わせる形で我々は「手話言語 (*signed language*) 」という言い回しを使用しました。すべての自然手話をいい、イギリス手話、コロンビア手話、イタリア手話などすべての自然 (*sign language*) に適用します。

### 4.0 通訳者教育開発の国際的事例

WASLI は通訳者教育モデルについての公開報告と証言などを集め調査しました。様々なモデルケースを調べてから、ハイライトとなる5つの事例を選択しました。それは WASLI 哲学声明でしめ

した文化的言語的感受性を代表するような、また通訳者教育到達までの道のりが様々であることを物語るようなものです。世界中にはいろいろなモデルとなるものがありますが、この文書の目的にあったものとして次の例を挙げました。

#### 4.1 コソボ

このモデルでは、世界ろう連盟（WFD）とオーストラリアの相談役が地元のろうクラブと通訳者養成者とともに活動し、基本的な通訳教育完成に関心のありそうな手話技術を持った人を決めることから始めました。この養成事業は段階的に行われ、国際相談役は地元のトレーナーと協働し、相談役が帰国した後も長く学生とともに働き続ける力をつけることができを確認しました。通訳者作業グループの設立によってまた、このステップが文書化され国の手話の政府による承認を勝ち取るために必要であることが確かなものとなりました。

出典 エマーソン,S&ホティ,セルマン (2007年)「コソボ通訳者養成の始まりと国際アドバイザーの影響力」(115-122 ページ)

シンシア・ロイ編 『世界の手話通訳業における多様性とコミュニティー2007年スペイン・セゴビアでの WASLI 大会議事録』

#### 4.2 メキシコ

メキシコでは最近、ティファナでろう協と通訳者の協力関係に基づいた二つのプログラムが実行されました。この免許プログラムはどちらも 185 時間からなり、一つはろうコミュニティの諸問題、メキシコ手話の知識や実践に焦点を当てたもので、もう一つはメキシコ手話通訳に焦点をあてたものです。通訳者組織、ろうコミュニティ、大学間の協力的アプローチで、メキシコにおける初めての中等教育終了後の通訳養成事業となりました。

出典: ラムゼイ,C & ペナ,S. (2010) 「ふたつのカリフォルニアの境での手話通訳」 (3-27 ページ). レイチェル・ロッカー・マキー&ジェフ・デイビス編 『多文化多言語における通訳』 ワシントン・ギャローデット大学出版

#### 4.3 コロンビア

コソボ同様、通訳者とろうコミュニティ組織が様々な非政府組織と協力してこの国に通訳者教育をもたらしました。特筆すべき協力関係は次のようなものです。2010年にカナダの通訳者教育者が招かれて 5 日間集中トレーニングの教育現場で教えている通訳者と協働しました。その教育者がマレーシアで使用したモデルをもとに、実践活動中に言語モデル通訳者、相談者として活動できた 5 人の通訳者と 5 人のろう者を一つのグループとしました。このチームは外部の相談役とともに協働し、技術やアプローチを学び、さらにトレーニングの技術発展をリードするようになりました。こうして通訳者教育の機会が教育現場での通訳者のためになると同時に、ろう者や通訳者の相談役が増え、仕事のためのスキルや知識をともに広げることになりました。この活動は継続され、複数の大学で近い将来トレーニングを提供する方法を考察するようになっています。

#### 4.4 ケニア

ケニアろう協会、スウェーデンろう協会、ナイロビ大学の研究者が協力して 1991 年にケニア手話の記録と教授プロジェクトが始まりました。続いて基礎的な通訳トレーニングカリキュラムが開発され大学やその他の場所で実施されました。パートタイムコースにはその資金によって 6 ヶ月から 12 ヶ月の 3 つのレベルがあります。この養成課程はコミュニティや国際的背景で働く通訳者に資格をあたえるものです。認知を受けたサービスで専門職として手話通訳が出てくることは依然としてありますが。通訳者教育は ASL その他の多くの手話の普及により難しくなってきた。国際援助による主導権を通して、特にろう教育において、言語用や手話教授の変化へと導きました。ケニア手話通訳者協会は 2000 年に登録されました。

出典 オコンボ, O, J. G. ムウェリ & W. アカランガ (2009). 「ケニアにおける手話通訳養成」 J. ネイピエ編 『手話通訳教育における国際的な見解 通訳者教育現場, V.4.』 ワシントン D.C. ギャローデット大学出版, 295-300.

#### 4.5 ニュージーランド

1970 年代後半にろう協会が形成されてから、1985 年に通訳者の養成、雇用に政府の援助が得られるようになりました。はじめの「突貫コース」は 3 ヶ月間で、アメリカの通訳養成者がリードしました。彼は没入法で行うため地元のろう者を、関係学習の支援を得るために他の専門家を参入させました。通訳サービスはろう協会に雇用された修了生によりまもなく確立されましたが、すぐに需要が供給を上回りました。1992 年に 2 年間のフルタイム学位コースがオークランド工科大学で立ち上げられました。ここではろう講師と、海外でより多くの資格を取った最初の集団の修了生が共同で教えました。この二年間の学習では、通訳技術とニュージーランド手話 NZSL を確かなものにするのは不十分ということがわかり、このコースは オークランド工科大学の手話通訳 3 年間の学士号コースに発展しました。海外の仲間との交流、増え続ける文献研究へのアクセス、音声言語通訳者達とのつながりなどすべてが、ニュージーランドにおける専門職の発展に貢献しています。

出典 マッキー, R, S. サメシマ, L. ピバック, D. マッキー (2009). 「ニュージーランドにおける手話通訳者教育と専門職」 J. ネイピエ編 『手話通訳者教育の国際的な見解、通訳者教育シリーズ』 V.4.』 ワシントン D.C. ギャローデット大学出版 200-220.

#### 5.0 通訳者教育プログラム確立のモデル

下の図は教育を受けた通訳者も通訳養成プログラム開発の知識を持つ人もいない国において、長期間にわたり継続的に通訳者養成開発を行うための 3 段階モデルを示しています。

関係コミュニティ（利用者、サービス提供者、雇用者、実践する通訳者）との強いつながりを築くことが通訳者養成と職業化を成功させるために役立つ大切な要素となっていることに注目してください。

その他の方法としては、個人的に通訳者が外国で学習し仕事をし、専門的知識や学問的な基礎をもって帰国し、自国で通訳教授をするようになるという国もまたあります。

1 最初の開発と実践	2 強化と助言して実践	3 地元所有権と維持
開発と第1グループの試験的カリキュラム	実践を繰り返す	実践を繰り返す
外国教師が地元のアドバイザーや関係者と協力する	協力して教えるよう助言：熟練教師と地元の修了生	地元人がリードをとって教える
開発と試験的資源	カリキュラムと資源の改善	実行中のプログラムの改善
通訳の使用と雇用を支持する	利用者、雇用された通訳者、実践者を繋ぐ	利用者、サービス提供者、実践者の繋がりを強化する
プログラムを評価する	プログラムを評価する	プログラムを評価する

WASLI が通訳者教育開発のための各国の取り組みの一部として推薦する共通する最初の取り組みと内容があります。これらは通訳者教育を公的に開発し発展させ成功をおさめた国がベースになっていきます。これらの教育的な要素は言語や文化の違いに関係なく皆で分かち合えるものであると信じています。

### 5.1 手話通訳者指導者としてのろう者

ろう者を自らの言語である手話の教師として育て、人々が通訳方法を学ぶ前に、手話指導のメカニズムを創造するために、手話コミュニティとともに仕事をする必要があります。言語技術が高いことが、通訳教育成功の前提条件でなくてはなりません。多くの国で手話、ろうコミュニティ、文化知識、そして彼らの要望にこたえる支援をする方法を教える強力なプログラムが開発されてきました。これらは手話プログラムやろう研究プログラムと呼ばれ、一連のコースがあります。

### 5.2 国の手話と地域のバリエーションを記録する

その地域の手話を知らないところで通訳者教育をする場合、ろう組織やその地域の手話のエキスパートであるろう者とともに仕事をし、助言をうけます。ある国に手話がないと仮定することは言語の植民地化の危険があると、WASLI 大会議事録(2005)の中でフィレモン・アカッチェがはっきり述べています。これは地域で使われている手話の記録を手伝うことで音声通訳者や言語学者が重要な役割を果たすことができる場面でもあります。最終的には、国や地域にある言語の多様性を尊重し記録していくことも大切なことです。そうして言語がその国に存在している多様なありかたを支援するのです。これらの地域で仕事を望む通訳者は実地演習をしなければなりません。

### 5.3 国の手話を認めること

手話の「認可」を定義するには多くの形があります。例えば、言語コミュニティの中で社会的に

言語が受け入れられることもあるでしょう。多数派のコミュニティから公式ではないが認可されていることもあるでしょう。そしてまた、政府が手話を正式に言語として認可するということがあるでしょう。公的な認可がないことがコミュニティや国の通訳者育成を阻むということはありません。

#### **5.4 手話研究プログラムの創設**

通訳者養成の基礎となる手話研究は多くのモデルがありますが、次に挙げる要素が多く国において一貫したものになるようです。

##### **上級手話研究 1**

このコースは、典型的な統語パターン使用、マニュアルのない表情、時間や数の表現、豊富な動詞の形態論、正確な表情演出、そしてボキャブラリー強化などを含む地元手話での生徒の表出、理解技術を再調査し、確かなものにさせるものです。

##### **上級手話研究 2**

手話技術が洗練され広がりを見せてきます。作られた動きと関連する空間の使用、豊富な語彙能力や様々な状況での手話法の認識（例えば演説的や会話的）が含まれます。このコースの目的は学生の目標言語構造に対するメタ言語的認知力や単一言語、2言語（翻訳）作業でのこれらの効果的使用能力を高めたりすることです。

##### **（地元の）手話の言語学的構造**

上級手話研究クラスで学んだメタ言語的、実践的知識を元に、このコースでは学生が話法、語彙、統語法、形態論、音韻論などのレベルで手話の言語的分析をするように導くものです。参考資料は地元の、または国際的な研究文献で作り、学習活動することで学生は言語学的知識を地元手話相の先導分析へと生かしていく機会につながります。

##### **上級音声言語研究**

このクラスは学生が記録する時の社会言語学的認識を高め、彼らの音声言語範囲内での変化を整えます。コミュニケーションにおける対人的な要素や技術も通訳プロセスに関係があるとみなされています。学習活動は通訳者の仕事に関連した記録や話法ジャンルの範囲での創作技術やボキャブラリーを豊かに向上させることを目的としています。

##### **ろう文化研究**

ろう者は社会の中で少数グループです。このコースでは地元や地域でのろう者の集団としてのあり方や、社会的地位、歴史、人生経験の理解を深めることを目指します。他の国々からの、時代も様々な、ろう研究文献に関しての大切な価値評価がコース活動の一部になっています。

## ろうコミュニティでのサービス学習

「サービス学習」は教えて学ぶ戦略です。これは意義深いコミュニティサービスを教育とその反応に結び付けて学習経験を豊かにし、市民責任を教え、コミュニティを強くするものです。学生達は適応し、地元のろうコミュニティでの活動や実生活のニーズにそって実践的に貢献することでろう文化や手話の知識を高めます。この目的は実践的な技術を豊かにし、ろう者やその関係者との関係を作り、コミュニティに対する責任ある態度を取れるようにすることです。

## 5.5 通訳カリキュラムの内容

学生が通訳学習を始めるのに必要な手話技術をもてれば、次は通訳カリキュラムの開発です。必須コースの典型的なものには次のものが含まれます。

### 比較言語学

これはその国の手話と音声言葉の言語構造の包括的な考察です。ふたつの言語の話法機能に焦点を当てた社会言語学の学習、音韻学、形態論、統合論、語彙、話法、意味の創造などの項目があります。

### 職業実践への導入

手話通訳職の概要と、通訳としての仕事の理論的根拠を学びます。手話通訳者の役割と責任、職業集団の役割、そして必須の能力、資質、手話通訳者として有効に仕事をするため必要な知識についての講義があります。学生は通訳役割と倫理のモデルを紹介され、ろう者と聴者のコミュニティとの間で通訳をするため地元の状況と関連付けてこれらを考えます。

### 翻訳と話法分析技術

主な話法分析のアプローチと翻訳術の概要を学ぶコースです。学生は手話と音声言語双方で有効に翻訳を行うために手話の原文と音声言語両方を分析できる実践技術を磨きます

### 異文化コミュニケーション

文化的背景の違う個人間での有益な対話と無益な対話の要素への入門を扱う。これには文化の作用、文化の一員であること、民族中心主義、文化が自己認識とコミュニケーション態度に与える影響などの項目があります。

### 通訳技術 とテクニック

これにはいくつかのコースがあります。それぞれが基になるよう計画されていますが、通訳者は翻訳、一貫した通訳、同時通訳技術の基礎をもち、こうした技術を様々な対話や語法に適応できるようにするものです。学生は様々な話法のジャンルで仕事をします。会話の形式（インタビュー、相談事など）から始めて、進んで一人語りの話法（スピーチ、講演、説教など）を扱うようになります。さらに、子どもとの仕事や、大小のグループ会議や、標準語でない手話ユーザーやろう通訳者との仕事もあるでしょう。

## 倫理、専門職意識、意思決定

仕事中の意思決定の場で、通訳者を導く倫理綱領、価値観、方針を完全に理解するように学ぶものです。現実世界のさまざまな場面に批判的思考を適応させるよう育て、倫理的で健全な専門的決断をする能力を高めます。

## インターンシップ

学生は本番の現場での通訳を観察、実践、厳しく反省します。理想は学生が経験を積んだ通訳者に付いて仕事をする機会をもち、そして同じ学生仲間と仕事をし、それから自分ひとりで働くようになることです。地元の状況にしたがって取り決めをするのがまさに必要条件です。実習体験を厳しく反省し体系的に記録することが大切な学習となりこのクラスでの評価作業となります。

## 特殊な現場（地元の状況をもとに）

学生は特殊な現場での通訳のための対策や要求を研究します。ビデオリレー、法律関係、医療関係、教育関係、舞台、宗教関係などの現場の項目がある国があります。

## ろう通訳者との効果的なチーム通訳

ろう通訳者を含むチームを含めて、通訳をチームで行うための実践アプローチと理論を探求するコースです。チームメンバー間で効果的なメッセージ管理へのアプローチと戦略がサービス提供のこの重要なモデルの焦点となります。

## 6.0 並行して行う活動

### 6.1 地元資源の開発

WASLI には国同士共有できる資源がありますが、養成の行われる地元地域をサポートする独自の材料をそれぞれの国が開発することもとても大切です。例えば、ヨーロッパや北アメリカ背景で開発された資源が役に立たないこともあります。他国のカリキュラムを調べることは役立ちますが、一方でその国の材料が適当であるかどうかを評価するために、また独自のものを作るため、または必要で求められたときは既存のものを作り変えるために、地元の教育者が体系をもつ必要があります。

### 6.2 地元の教育者の開発とプログラム支援

教育者開発に関しては、経験がありろうコミュニティに尊重されている通訳者を識別しなくてはなりません。その人は通訳者教育者の第1世代として働きます。コミュニティ内ですでに非公式に働いているろう通訳者もこれに含まれます。

助言をするグループも通訳者教育プランを立てるときに非常に役立ちます。作成したプログラムがろうコミュニティの支持を得て、彼らがトレーニング過程において真のパートナーであると感



じられるために、ろうコミュニティとともに進めるのが重要だと強調しておきたいのです。

### 6.3 プログラムとコミュニティの関係構築

このアプローチを形成する WASLI 哲学声明では、ろうコミュニティメンバーや手話通訳者同様、音声言語通訳者や言語学者とともに仕事をすることを述べています。音声言語通訳者の成熟した団体がいくつかあり、彼らが相談役や教師の役をしてくれたり、手話通訳者コミュニティとして我々が専門家段階に足を踏み入れるときのサポートをしてくれます。

養成開発はろう者がコミュニティ内でサービスや教育にアクセスできるため必須のことですが、その一方で利用者団体との協働計画を開発する必要もあります。通訳者養成をしながら、ろうコミュニティ団体と通訳者は適切な資金が出せて、安定したサービスを提供できる通訳事業所創設のためのロビー活動をする必要があります。コミュニティ内のあらゆる分野、健康、教育、司法などで必要性があります。

## 7.0 終わりに

この文書は専門的手話通訳がいる国で通訳者教育を開発することについての WASLI の哲学的姿勢をはっきり示したものです。通訳者教育のプロセスや特定のモデルを定めることは WASLI の意図するところではありません。地域状況や機会は国によって大幅に異なるものですから。このガイドラインの目的は通訳者のための専門的トレーニングを確立し、洗練させた経験をもつ国で学んだことを分かち合うことです。この文書は数カ国で養成事業を立ち上げた道のりの例をまとめ、効果的な通訳者プログラムに可能な要素を示しました。最終的には各々の国が自らの出発点に立って、地元の関係者と幅広く適当と思われる専門家の方々との協力関係を築きながら進めていかなくてはなりません。WASLI の主目的はこれらの努力を支援する国際的な媒体を提供し、ろう者と通訳者のコミュニティが望む成果を果たすことです

参照：<http://www.servicelearning.org/what-service-learning>.

アメリカ手話学習者に適応した学習例があります:

<http://www.servicelearning.org/slice/resource/american-sign-language-ii-class>